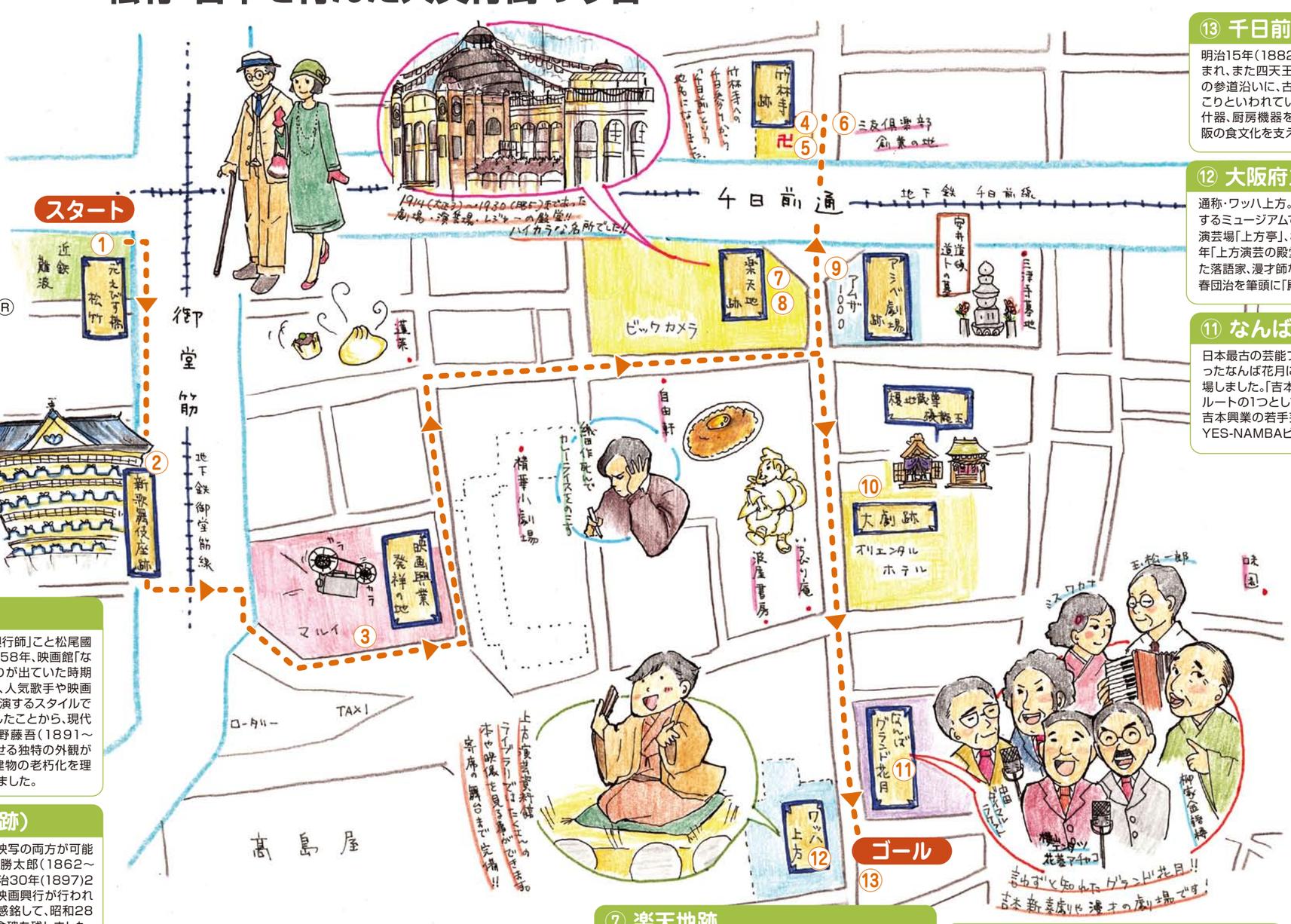
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩（ぽ） OSAKA ASOBO®

上方演芸隆盛の地・千日前ぶらぶら
～松竹・吉本を育んだ大興行街の今昔～

江戸時代の千日前は法善寺や竹林寺の「千日参り」や、千日墓などで知られた集落でしたが、明治維新以降の文明開化によって都市の娯楽が変容して映画の興隆が起こると、大阪で最も映画館・劇場が集積したまちとなりました。昭和に入ると松竹の白井松次郎が大阪歌舞伎座、大阪劇場を開場、吉本興業がなんば花月を開場し、日本を代表する大興行街として発展しました。映画興行発祥の記念碑からワッハ上方まで。上方演芸の歴史とともに大衆娯楽のまち・千日前を辿っていきましょう。



① 戎橋松竹跡（近鉄難波ビル）

戦前、吉本興業経営の南地花月や北新地花月倶楽部など、大阪に50軒以上あった寄席は、度重なる空襲で全て灰燼と帰しました。昭和22年（1947）、待望の寄席復活を果たしたのが、戎橋松竹です。戦前から吉本興業に対抗して、演芸進出を図っていた松竹創業者・白井松次郎（1877～1951）が、千日土地建物が経営する映画館・戎橋松竹を演芸場に改装しました。戦後は吉本興業が演芸から撤退した事もあり、大阪唯一の寄席として君臨しましたが、新歌舞伎座の建設資金捻出のために昭和32年（1957）に閉鎖されました。

② 新歌舞伎座跡

白井松次郎死後、千土地興行の経営を引き受けた「昭和の興行師」こと松尾國三（1899～1984）が、大阪歌舞伎座の後継劇場として1958年、映画館「なんば大映」の跡地に建設しました。歌舞伎は観客動員に陰りが出ていた時期で、千土地興行が経営していた大阪劇場の興業をヒントに、人気歌手や映画俳優を中心に据えた「座長芝居」「歌手芝居」を月替わりで公演するスタイルで大成功を収めました。その後のほとんどの商業劇場が追随したことから、現代商業劇場の興行スタイルの走りといえます。建築家・村野藤吾（1891～1984）の設計で、波打つ瓦屋根が連続し、桃山時代を思わせる独特の外観が大阪・ミナミのランドマークとして親しまれてきましたが、建物の老朽化を理由に2009年6月閉幕。2010年夏に上本町6丁目に移転しました。

③ 映画興行発祥の地碑（南街会館跡）

「映画の父」と呼ばれるリュミエール兄弟が発明した撮影と映写の両方が可能な機器「シネマトグラフ」。それをフランスに留学した稲畑勝太郎（1862～1949。後の大阪商業会議所第10代会頭）が持ち帰って、明治30年（1897）2月、当地にあった歌舞練場「南地演舞場」で日本で初めての映画興行が行われました。阪急・東宝グループ創業者の小林一三は、その事に感銘して、昭和28年（1953）、東宝の興行拠点・南街会館を落成するさいに記念碑を残しました。南街会館は5館の映画館が営業していましたが、平成16年(2004)、老朽化のため閉幕。オープン以来、50年間の総動員数8300万人。年間最高記録は昭和34年（1959）の295万人でした。その後、平成18年（2006）に「なんばマルイ」(8～11階にTOHOシネマズなんば)が開業しています。

④ 竹林寺跡

慶安2年（1649）に浄業院が建立され、これが開基とされています。江戸時代、この地域には刑場や焼き場、「大坂七墓」の一つとされた大規模な墓地がありました。竹林寺や隣接する法善寺は、処刑された人や墓地に埋葬された人たちの霊を慰める千日念仏回向を行ったところで、千日寺と呼ばれ、南の墓所へ通じる道は千日寺の前ということで、千日前という地名が生まれました。平成20年（2008）12月、天王寺区勝山に移転のため、閉山しました。

⑤ 千日墓地

慶長20年（1615）、豊臣氏に代わって大坂城主となった松平忠明は、市街地整理の一環として、市中の外れに墓地を集約させました。「千日墓地」と呼ばれたこの地には、刑場や焼き場も併設され、普段は立ち寄る人も少ない、寂しい場所だったといいます。明治維新後、刑場は廃止、焼き場と墓地は阿倍野斎場へ移転され、跡地の再開発から、今に続く大興業街が形成されていきます。

⑥ 「三友倶楽部」創業の地

明治42年（1909）滋賀出身の実業家・山川吉太郎が設立しました。当初は活動写真館で映画興行を行っていましたが、のちに大阪初の映画製作会社に発展。「帝国キネマ演芸」となって約1000本の作品を手掛け、昭和初期には「新興キネマ」となり、内田吐夢、溝口健二監督らを抱えました。その後、新興キネマの映画部門は大映、角川映画へ、演芸部門は松竹芸能へ繋がります。

⑦ 楽天地跡

明治45年（1912）1月16日、鞠乗の興業をしていた奥田井兵衛の家屋より出火し、千日前、高津、生國魂神社あたりが全焼した「ミナミの大火」が発生しました。壊滅的な被害からミナミを復興させるために、まず現在の千日前通りにあたる東西の通りが拡幅され、市電が開通。南海電鉄は千日土地建物(後の日本ドリーム観光)を設立して、大阪初の映画製作会社「三友倶楽部」経営者の山川吉太郎に声をかけ、大正3年（1914）、地上3階建ての一大娯楽レジャーセンター「楽天地」を建設します。大劇場と2つの小劇場、メリーゴーランド、ローラースケート場、水族館、展望台などがあり、夜間はイルミネーションが配され、一躍、大阪随一のハイカラな名所となりました。その後、白井松次郎が千日土地建物を買収。楽天地は昭和5年（1930）に閉鎖され、跡地に大阪歌舞伎座が建設されます。

⑧ 大阪歌舞伎座跡

昭和7年（1932）、白井松次郎が楽天地の跡地に開業しました。正面に巨大丸窓がついた地上7階建てビルで、まだ高層建築物が少なかった当時の大阪では異彩を放ちました。東京の歌舞伎座を凌ぐ座席数と舞台設備を誇り、まさに「上方歌舞伎の殿堂」と呼ぶに相応しい劇場で、初代中村鴈治郎（1860～1935）がこけら落しのさいに「ほんまに夢のやうだす」とコメントして感涙したといいます。劇場横の飲食店の通り(現在の精華通り)は、鴈治郎が通い路にしていたことから「鴈治郎横丁」と名付けられて賑わいました。しかし稀代の大名優・鴈治郎の死去や、戦災で多くの劇場が焼失したため、上方歌舞伎の人気は凋落。新歌舞伎座に縮小移転することとなり、昭和33年（1958）4月に閉鎖しました。

⑨ 芦辺劇場跡

明治末から大正に入ると旧来の芝居小屋が次々と映画館に改装されましたが、芦辺劇場もその1つで、大正3年（1914）に映画館に改装されました。この時の電飾工事の責任者が若干19歳の松下幸之助で、約半年、仕事に打ち込みますが、試点灯が遅れそうになり、最後は間に合わせるために3日間、徹夜作業を決行。開館2日前に無事に試点灯に成功させました。年末の寒い屋外工事で、生来、体が弱かった幸之助は、肺尖カタルで病に伏せます。「ミナミの演舞場の新装工事や通天閣の電灯工事など色んな仕事を担当したが、この芦辺劇場の仕事は忘れられない」と述懐しています。ちなみに劇場は後に千日土地建物経営の演芸場になり、昭和27年（1952）に改築して大映の封切館に。昭和46年（1971）、大映の映画製作打ち切りと共に閉館して解体。現在はアムザ1000が建っています。

⑩ 大阪劇場跡

通称・大劇（だいげき）。昭和8年（1933）竣工。大阪歌舞伎座とともに3000名規模の収容人員を誇る関西随一の大劇場でした。当初は東洋劇場という名前で洋画の封切館でしたが、翌年、千日土地建物が経営権を取得して大阪劇場と改称、大阪松竹少女歌劇団(OSSK)の本拠地としました。OSSKのレビューや人気歌手・映画俳優の実演と松竹映画の2本立て興行が人気を博し、笠置シズ子や京マチ子といったスターを生み出しました。昭和42年（1967）閉幕後、大劇プレイタウンという娯楽施設に転換しましたが、平成3年（1991）に老朽化で取り壊され、跡地にはなんばオリエンタルホテルが開業しました。昭和25年（1950）に地下一階に設けられた飲食店「大劇サロン」は、アルバイトサロン(現在のキャバクラ)の発祥とされています。支配人を務めた磯田敏夫は織田作之助の弟子で、その体験記は「ネオン太平記」(1968年日活)として映画化され、ロケにも使用されました。

⑪ なんばグランド花月

日本最古の芸能プロダクション・吉本興業の本拠地。南海通りにあったなんば花月に代わる劇場として、昭和62年（1987）に新築開場しました。「吉本新喜劇」がほぼ毎日公演されており、大阪の観光ルートの1つとして、地方からの団体客も多く訪れています。また、吉本興業の若手芸人の登竜門である「5upよしもと」が、向かいのYES-NAMBAビル5階に入っています。

⑫ 大阪府立上方演芸資料館

通称・ワッハ上方。平成8年（1996）に開設された、上方演芸を紹介するミュージアムです。展示室の他に、昔ながらの寄席小屋造りの小演芸場「上方亭」、300人収容の「ワッハホール」などがあります。毎年「上方演芸の殿堂入り」を選考しており、上方演芸の発展に貢献した落語家、漫才師など演芸人をたたえるために、第1回選考の初代桂春団治を筆頭に「殿堂入り名人」として顕彰・展示を行っています。

⑬ 千日前道具屋筋商店街

明治15年（1882）頃、大衆演芸の発展と共に寄席や劇場が多く生まれ、また四天王寺のお大師さんや今宮戎、法善寺や竹林寺などの参道沿いに、古道具屋、雑貨商が軒を連ねたのが道具屋筋の起こりといわれています。繁華街・ミナミの発展と共に、調理器具や什器、厨房機器を扱う専門店街として成長し、くいだおれの街・大阪の食文化を支えてきました。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。